

波乘人

花山網



遠い遠いはるか昔

今でいうハワイの地で
古代メソポタミア人によって産み出されたスポーツ

多くの伝説と

『自由』という文化を産み
自然の雄大さを人々に教えるそのスポーツは
今も多くの人に楽しまれている。

サーフィンを通して出会う人々や
その土地、独自に根付くカルチャーは
常に新しい刺激と発見をもたらし
私を成長させてくれる。

この本には
私がサーフィンから学んだ
一人の人として生きるための在るべき姿を記している。

もし興味が湧けば
波乗人となり
果てしなく、広い世界を見に行こう。

母なる海

真夜中に出発し
夜明けとともに海に入る。

誰もいない静かな海で
波のリズムに身体を合わせ
ただただ、自然を感じてみる。

朝日が登れば
誰よりも先に陽の光を浴び
身体に力を蓄える。

その瞬間、日頃のストレスは吹き飛び
自分が一人の人間として生かされている事を実感出来る。

時が立つのも忘れ
頭は、空になり
心は、裸になる

不規則に続く波のリズムは
さながら地球の呼吸のようで
私という存在が
いかにちっぽけか
実感させられる。

海と風

人の力では、あらがう事の出来ない大いなる力。

サーフィンを通して心を通わすことができるのは、
私達の生きている
地球そのものである。

『母なる海』とは、良く言ったもので、
時に優しく、私を癒し
時に厳しく、試練を与える

『人は海の前では嘘をつけない。』

海に入ると誰でも子どもに戻り
無邪気に波と戯れる。

そして波乗人は
ただ一本の波を求めて
果てしない旅に出る。

自分らしく生きる事

人間らしく生きる事

素直さと謙虚さ

自然の雄大さ偉大さ

サーフィンは、その全てを教えてくれる。

生き方

サーフィンとの出会い。
それは、時に、その人の生き方を変えてしまうことがある。

とある島に住む若者達は、
海の魅力に魅せられ
自分の人生を変えた人達だった。

その島にあるカルチャーは、

『自由』と『素直』

まさに
知足の精神が芽生えていた。

求めすぎること無く
日々、自然の恵みに感謝し
自分らしく生きる事を求めている。

波が立てば海に入り
極上の時間を心ゆくまで楽しむ。

日が傾けば釣りに行き
その日のおかずを手に入れる。
釣ればよし釣れなくてもよし。

求めすぎる事無く
ただ、ありのままを受け入れている。

日が落ちれば酒を飲み
月が登れば歌い出し
遊び疲れて眠りにつく。

そして、
また次の日も
海と供に一日を始める。

自然のサイクルで生きてると
人は素直になれる

他人と自分に
上も下もなく
供に、自然に生かされている一人の人間であることを感じる。
頭でなく、心で悟ることが出来る。

時代の変化とともに
人々の暮らしは変わって来たが
『海を愛し、波とともに在る』
サーファーとしての在り方は今も昔も変わっていない。

自然が作り上げて来た偉大な歴史と
人類が作り上げて来た多くのカルチャーを
一つ一つ私に伝えてくれる。

海の魅力に魅せられて
私も人生観が大きく変化した一人である。

誰よりも自由に
誰よりも素直に

これが、第二の母の教えである。

挑み、戦う

勝てぬと知りながら
大自然の力に人は挑まずにはられない。

30mを超える波
7000mを超える山々

無謀と知りながら
命を掛けて挑む人がいる

なぜ、そこまでして立ち向かうのか。

答えなど無いのだろう。

あるのは、人間のDNAの奥深くに刻み込まれた
『本能』という名の欲望であろう。

その欲望は満たされることが無い。

生きている限り

人は挑戦し続けるのである。

雑念など入る隙間も無い。

ただ、本能に身を任せ
一心不乱に挑み続ける。

悩めば死ぬ世界。

挑戦することとは、
生きることである。

人間にとって
一番の欲求

『生』

ただそれだけを求めて
人は挑み続けるのである。

海に出るには、
ある種の覚悟を身に纏う必要がある。

海に入れば誰も助けてはくれない。

自分の経験と実力を信じ
ただただ、ひたすら立ち向かうだけである。

挑み続けた先に有る
一瞬の快楽を求めて
終わりの無い努力を積み重ねるのである。

努力した先に
今の自分を越えられると信じて
海へ出るのである。

思い通りに行かないことの方が多い。

時には、雪の降る中で寒さと戦いながら海に入り
時には、波に飲まれ、海底の岩に叩き付けられ
時には、海に欺かれる。

しかし、それでもやり続けるのである。

サーフィンはスポーツとしての実力だけでない。
自然を相手にすることの覚悟と

人間としての力が試されている。

そして

その経験一つ一つが、強く、たくましく、成長させてくれる。

安らぎ・心杭

そこに帰れば
日頃のストレスを忘れ
心を許し、素直になれる場所

そんな場所が誰しも心の中にあるだろう。

私はそれを『心の杭』と読んでいる。

自分の心の拠り所であり、
帰りたと思える場所

世間での競争
周りからの目
どこに進めば良いか分からなくなり
自分の道に迷った時
心の杭を目指し
そこに戻れば
全てがリセットされ
新たな出発が切れる場所。

自分で打つ杭は
誰にも邪魔されることなく
折れることなく
いつでもそこに立っている。

そのように心の底から感じられ
心を許せる場所

それが心の杭

私の杭は
海そのものであり、
海の中から見る景色である。

一度海に入れば、時が経つのも忘れ、
ただがむしゃらに波を楽しむ。

自分の全てを波にゆだね
心と頭を空にしてみる。

海の一部になり
地球の一部になり
やがて、全てが溶け出して行く。

悩み。
不安。
迷い。

海のスケールからすれば、全てが小さく感じられる。

どこまで悩んでも

なるようにしかならない。

今、出来る事を
一つ一つ一生懸命こなして行くことしか
出来ることが無い。

だから、海では波を楽しむ。
自分の全てをさらけ出す。

自分で決めた心の杭を
悩んだときの道標とし
全力で頼ってみる。

そうすればきっと
全てを受け入れ
背中を押してくれる。

そしてまた、
一つ成長し
次の一歩を
踏み出して行く。

結び・未来

本書に書いたのは、私がサーフィンを通して身に付けた価値観である。

一種の哲学と言えるかもしれない。

海は本当に多くのことを教えてくれる。

自然の恵み

世界の広さ

己の小ささ

自由な文化

まだ見ぬ世界を知り

多くの人と出会い

根付いたカルチャーを肌で感じ

時には、自然が与える試練に立ち向かう。

そして

自分自身を成長させる。

その全てを教えてくれるのが、サーフィンというスポーツである。

旅へ行こう。

海へ出よう。

あなたに必ず

無限の可能性を与えてくれる。